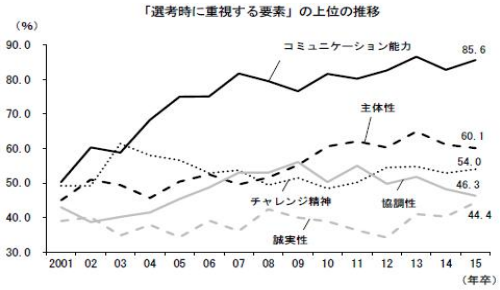
Reference data (of the part you cite)

脇　忠幸 (2016)『「コミュニケーション能力」の言説』. In Reinelt, R.(eds.) Communication 2016. JCAcs, Matsuyama, 21-28 .

第19回JCA中国四国支部大会（2016.12.4.）

「コミュニケーション能力」の言説分析

福山大学人間文化学部人間文化学科
脇　忠幸



問題の所在

近年の企業採用人事 は「コミュニケーション能力」重視
　～経団連の調査によれば「選考にあたって特に重視する」 12年連続1位。
しかし・・・
「コミュニケーション能力」とは、具体的にどのような能力を指しているのだろうか　？

企業に？　文科省など国の機関 に？　研究者に？　一般的に？
　⇒この能力はどのように捉えられているのだろうか　？
　⇒学生は一体何に苦しめられているのか？
　⇒大学の現場は一体何をすればよいのか？

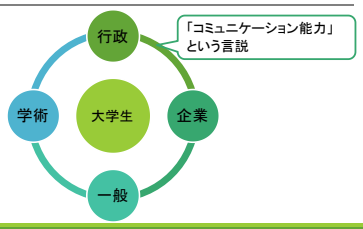
大学生をめぐる“囲い込み”

何を求められているのか？

何を努力すればよいのか？

誰も「答え」を持っていない？

⇒渦巻く不安？？



目的

本発表では・・・

1）【企業】【行政】【学術】【一般】で、「コミュニケーション能力」がどのように語られているのかを概観する。
2）「コミュニケーション能力」とは何であって何でないのか。

⇒「コミュニケーション（能力）」に関する言説分析の端緒

方法

以下の【ジャンル】に分けて、それらにおける言説を収集＆分析
収集キーワードは「コミュニケーション能力」「コミュニケーションカ」
収集対象は以下の通り・・・

【行政】→文科省の文書
【企業】→経団連の調査／学術的な研究（厳密に言えば【学術】の言説）
【学術】→学術的な研究
【一般】→朝日新聞の「声」欄（過去 1年分）

【行政】文科省の言説

●コミュニケーション教育推進会議（2010年）
〇趣旨
国際化の進展に伴い、多様な価値観を持つ人々と協力、協働しながら社会に貢献することができる創造性豊かな人材 を育成することが重要である。また、近年、子どもたちが 自分の感情や思いをうまく表現する ことができず、容易に キレるなどの課題が指摘されている。
このような状況を踏まえ、子どもたちの コミュニケーション能力 の育成を図るための具体的な方策や普及のあり方について調査・検討を行うため、「コミュニケーション教育推進会議」を設置する。

●コミュニケーション教育推進会議:「コミュニケーション能力」に関する指摘・調査等（第1回配布資料：2010年）
⇒過去の中央教育審議会での議論などを挙げ た会議資料。
⇒「コミュニケーション能力」の欠如・低下が問題の根本にあるかのような印象
（以下、傍線部はママ）

4. 子ども・若者の変化（中教審キャリア教育・職業教育特別部会： 2010年）
〇 働くことへの関心・意欲・態度、目的意識、責任感、意志等の未熟さや コミュニケーション能力 、対人関係能力 、基本的マナー など、職業人としての基本的な能 力の低下や職業意識・職業観 の未熟さなどが多く指摘されている。

〇本特別部会におけるこれまでの審議では、 社会的・職業的自立、学校から社 会・職業への円滑な移行に必要な力 について、例えば次のような意見が出された。
・能力（態度・行動様式）: コミュニケーション能力 、粘り強さ、課題発見・課題解決能力、変化への対応力、協調性、共に社会をつくる力、健全な批判力、段取りを組んで取り組む力 など

文科省における「コミュニケーション能力」とは・・・

以下のよう「である」	以下のよう「でない」
・「多様な価値観を持つ人々と協力、協働しながら社会に貢献することができる創造性豊かな人材の育成」に関わるもの。 ・「自分の感情や思いをうまく表現することができる」「キレる／キレない」ということに関わるもの。 ・「職業人としての基本的な能 力」の構成要素。 ・「社会的・職業的自立、学校から社 会・職業への円滑な移行に必要な力 」の構成要素。	・対人関係能力 。基本的マナー。 ※関連はある ・粘り強さ。課題発見・課題解決能力 。変化への対応力。協調性。共に社会をつくる力 。健全な批判力。段取りを組んで取り組む力 。 ※関連はある

で・・・結局何なの？
⇒よくわからない。

前提:「コミュニケーション能力」の低下。
そもそも定義できていないのに？

【行政】文科省 ≒ 教育言説

指導要領にて「コミュニケーション能力」が現れるのは・・・
●『小学校学習指導要領』（一部改正版） 2015年
・「外国語活動」
●『中学校学習指導要領』（一部改正版） 2015年
・「外国語」
●『高等学校学習指導要領』 2009年
・「保健体育」「外国語」「農業」「商業」「英語（主として専門学科において開設される各教科）」「特別活動」

○『中学校学習指導要領』（一部改正版） 2015年:「外国語」
第1 目標
外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り， 聞くこと，話すこと，読むこと，書くこと などのコミュニケーション能力 の基礎を養う。

構成要素らしいものは、何となく・・・。
育成方法らしいものも、何となく・・・。

○『高等学校学習指導要領 』2009年:「商業」
第4 ビジネス実務
3 内容の取扱い
(2) 内容の範囲や程度については，次の事項に配慮するものとする。
イ（発表者註:ビジネスマナーとコミュニケーション）については，訪問，受付案内などの際のマナー及びディスカッションや交渉などのコミュニケーションの技法を扱うとともに， ディベートなど を通してコミュニケーション能力 の育成を図ること。

で・・・結局何なの？
⇒やっぱり、よくわからない。

【企業】経団連の言説

●経団連「2015年度　新卒採用に関するアンケート調査」（ 2016年2月）
・企業（経団連企業会員）にアンケート調査。全国　1331社。有効回答数 790社（59.4％：このうち 72.4％が従業1000人以上。いわゆる大企業）
・「選考にあたって特に重視した点」（ 26項目から5つ選択）
「コミュニケーション能力」「主体性」「チャレンジ精神」「協調性」「誠実性」「責任感」「論理性」「潜在的可能性（ポテンシャル）」「リーダーシップ」「柔軟性」「創造性」「職業観・就労意識」「信頼性」「専門性」「一般常識」「語学力」「学業成績」「出身校」「倫理観」「感受性」「クラブ活動／ボランティア活動歴」「所属ゼミ／研究室」「保有資格」「留学経験」「インターンシップ受講歴」「その他」

【企業】経団連の言説

●経団連「2015年度　新卒採用に関するアンケート調査」（ 2016年2月）
・明確な「コミュニケーション能力」の定義はない。
・以下のよう「ではない」ことはわかる。
「主体性」「チャレンジ精神」「協調性」「誠実性」「責任感」「論理性」「潜在的可能性（ポテンシャル）」「リーダーシップ」「柔軟性」「創造性」「職業観・就労意識」「信頼性」「専門性」「一般常識」「語学力」「学業成績」「出身校」「倫理観」「感受性」「クラブ活動／ボランティア活動歴」「所属ゼミ／研究室」「保有資格」「留学経験」「インターンシップ受講歴」

⇒定義も無しに要求される「能力」。 ～「ポスト近代型能力」（本田　2005）
⇒そもそも、なぜ 項目に？ということ。　～「ハイパー・メリトクラシー」（本田 2005）

【企業】【学術】企業言説の研究（という言説）

●伊藤・上迫（2015）による調査
・福山市内にある 264社にアンケート調査 。有効回答数 98社（37.1％）。
・「企業の人材ニーズ」を探る。
「積極性」「誠実さ」「健康・体力」「一般常識・マナー」「 コミュニケーション能力 」「協調性」「パソコン能力」「専門知識」「語学力」

⇒明確な「コミュニケーション能力」の定義はない。
⇒企業の代弁？ 【企業】の言説（実態の見えない「コミュニケーション能力」）を 【学術】が（再）生成するような構図。

●芳賀ほか（2015）による調査
・「企業がなぜコミュニケーション能力を重要だと考えているのか、また具体的にはどのような能力を求めているのかといった問題については答えられていな　い」
・大手企業32社のトップ（会長、社長および上級役員）なら びに人事担当責任者に対して、半構造化インタビュー。
・「どのような行動した時、「コミュニケーション能力」がある／ないと感じます　か？」など、具体的な回答から「コミュニケーション能力」を探る。
・企業側が考える「コミュニケーション能力」をまとめると、以下の7つ。
1）「コミュニケーションの双方向性」
2）「発信力」
3）「アクティブ・リスニング」
4）「コミュニケーションの基盤」
5）「率直性」
6）「曖昧さの回避」
7）「報告の重要性」

○「企業側が考える「コミュニケーション能力」 」という言説
1）「コミュニケーションの双方向性」 …発信力と受信力のバランスがとれている。
2）「発信力」…話の核とタイミングを押さえ、論理立てて話すことで、相手に要点を明確に伝えることができる。／本質を理解して発信できている。／相手を話に巻き込むことができる。
3）「アクティブ・リスニング」 …積極的に相手の話を理解しようという姿勢を持つ。不明なことは明確にする。
4）「コミュニケーションの基盤」 …組織の一員として倫理観かつ礼節をもって意思疎通が行える。／ある程度の自己開示によって、相手との距離を近づけることができる。／対立を恐れず、伝えるべきことをしっかりと伝える。／全体像をきちんと把握し、周囲の状況を客観的に捉えることができる。／自分の言いたいこと、言うべきことをしっかりと文章で表すことができる。

スーパーマン！！

5）「率直性」…遠慮を残さず率直に話すことができる。
6）「曖昧さの回避」 …物事を曖昧にせず、結論を明確にする。
7）「報告の重要性」 …タイミング、順番、中身の信憑性などに配慮し、データに基づき論理的に報告する。

【学術】＝【企業】の報道官？

【学術】の陥穽
「コミュニケーション能力」を明らかにする営み
＝【企業】の言説を【学術】の言説として再生産

対抗言説の存在（灘光 2011、高井2011）

尺度ではなく、言説を。

コミュニケーション学における「コミュニケーション能力」
生得的～習得的のグラデーション。ある程度は　自然と身についている もの。
少なくとも、その“高さ”を求めるような規範的な能力ではない。
⇒だとすれば、【企業】のような規範的な認識をどう考えるのか　？
⇒生まれ持った「資質」に関する言説 がもたらす不安／諦め を増幅？

【一般】新聞の言説

●「朝日新聞記事データベース　聞蔵　Ⅱ」

対象：朝日新聞「声」欄（地方版含む）

期間：2015年10月31日～2016年10月31日

検索キーワード：「コミュニケーション能力」「コミュニケーション力」

ヒット件数：全 13件

⇒【行政】（教育）や【企業】の影響。

⇒やはり（？）「コミュニケーション能力」が何であるのかはわからない。

⇒なぜ「コミュニケーション（能力）」が問題になるのか　／なってしまうのか。

まとまらない「おわりに」

目的1）【企業】【行政】【学術】【一般】で、「コミュニケーション能力」がどのように語られているのかを概観する。

目的2）「コミュニケーション能力」とは何であって何でないのか。

⇒結果：明確な定義がないままに言説化している。

そもそもの問題？？

なぜ「コミュニケーション（能力）」が問題になるのか　／なってしまうのか。

●本田（2005）

・「コミュニケーションスキル」＝「ポスト近代型能力」

・「ポスト近代型能力」＝文科省の「生きる力」に象徴されるような、個々人に対して多様でありかつ意欲などの情動的な部分を多く含む能力。努力やノウハウとはなじまない性格のもの。どのように形成されるのかについて社会的に合意されたセオリーはいまだ確立されていない。どうすればそれを手に入れられるのか、誰にもはっきりとはわかっていない。

・「ハイパー・メリトクラシー　」＝現代社会

心理学化、社会学化の次は・・・
「社会のコミュニケーション学化」？
「コミュニケーション学化する社会」？

●貴戸（2011）

・「関係性の個人化」＝他者や場との関係によって変わってくるはずのものを、個人の中に固定的に措定すること 。

・コミュニケーションとはそもそも「個人」に還元できるものではなく、二人以上の当事者のあいだに生じる。「コミュニケーション能力」という言い方は、「関係性」を無理やり個人要因に還元 。

参考文献

芳賀日登美・宮原哲ほか .2015.「日本において企業が考えるコミュニケーション能力とは　―半構造化面接法による探索的研究 ―」, *Aoyama Journal of Interactional Studies* . 2, pp.81-101.

本田由紀 .2005.『多元化する「能力」と日本社会　ハイパー・メリトクラシー化のなかで　』NTT出版

伊藤祐一・上迫明 .2015.「企業の求める学生像と大学が目指す学生像の比較」『福山大学経済学論集 』39-1・2, pp.1-13.

貴戸理恵 .2011.『「コミュニケーション能力がない」と悩むまえに　生きづらさを考える　』岩波ブックレット

瀧光洋子 .2011.「コミュニケーション学におけるコミュニケーション能力の捉え方」日本コミュニケーション学会編『現代日本のコミュニケーション研究　―日本コミュニケーション学の足跡と展望 』三修社, pp.158-167

高井次郎 .2011.「対人コミュニケーション能力」日本コミュニケーション学会編　『現代日本のコミュニケーション研究 ― 日本コミュニケーション学の足跡と展望 』三修社, pp.47-55.

参考文献

日本経済団体連合会 .2016.「2015年度 新卒採用に関するアンケート調査結果」
http://www.keidanren.or.jp/policy/2016/012.html （2016年11月15日アクセス）

文部科学省 .2010-2011.「コミュニケーション推進会議」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/commu/1294421.htm　（2016年11月21日アクセス）

経済産業省 .「社会人基礎力」
http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html （2016年11月28日アクセス）

【行政】経産省≒教育言説

●経産省HP「社会人基礎力とは」

平成18年2月、経済産業省では産学の有識者による委員会（座長：諏訪康雄法政大学大学院教授）にて「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を下記3つの能力（12の能力要素）から成る「社会人基礎力」として定義づけ。

⇒「コミュニケーション能力」ではない？と思いきや、「中間報告」で登場。

⇒「コミュニケーション能力」は「社会人基礎力」の構成概念。

⇒こうした派生概念、類似概念がさらなる不安をかきたてる・・・？

人は、職場や地域社会で自分の能力を発揮し、豊かな人生を送りたいという意欲を持っている。職場や地域社会で活躍するために必要な能力 は、今まで大人になる過程で「自然に」身につくものと考えられており、あまり明確な定義は与えられてこなかった。しかし、近年、若者の コミュニケーション能力 の不足が指摘されるなど、日本社会の中で こうした能力 を身につける仕組みのはたらきが相対的に低下してきているように感じられる。

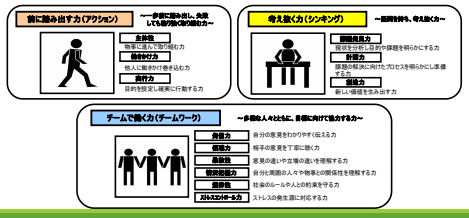
（略）

本研究会では、こうした職場や地域社会の中で多くの人々と接触しながら仕事をしていくために必要な能力を「社会人基礎力」と名付け 、その定義や育成・評価、活用のあり方等について、集中的な議論を行い、現時点での考え方の整理を行った。社会人基礎力の考え方が、若者や大人、企業や学校、地域社会等の間で共有されることは、人々がいきいきと活躍できる社会を創っていく上で一つの「鍵」となるのではないかと考える。

（「社会人基礎力に関する研究会　中間とりまとめ 」2006）

社会人基礎力とは

（3つの能力／12の要素）



宮原哲・芳賀日登美ほか .2015.「コミュニケーション能力」を再考する ―コミュニケーション能力テストC-Examの開発に寄せて ―」, *Aoyama Journal of Interactional Studies* . 2, pp.71-80.

平田オリザ .2012.『わかりあえないことから ―コミュニケーション能力とは何か』講談社現代新書

工藤俊郎 .2013.「大学生に有用なコミュニケーション能力の測定研究（質問紙調査分析から得た尺度の有効性の検討」『リメディアル教育研究 』8-1, pp.147-161.

町田佳世子 .2012.「就労期を迎えた北海道の若者のコミュニケーション能力実態調査 ―道内企業の期待との比較 ―」『助成研究論文集 』, pp.187-206.

大久保智生・澤邉潤・赤塚佑果 .2014.「「子どものコミュニケーション能力低下」言説の検討 ―小学生と大学生を対象と した調査から ―」『香川大学教育実践総合研究 』29, pp.93-105.

吉武正樹 .2011.「コミュニケーション能力と現代社会」板場良久・池田理知子編 『よくわかるコミュニケーション学 』ミネルヴァ書房